

渋谷公会堂の天井裏

降り積もる石綿

コンサートなどで年間約40万人が利用する東京都渋谷区の施設、渋谷公会堂（2318席）の天井裏に、発がん性のあるアスベスト（石綿）が鉄骨から大量にはがれ落ちていたことが分かった。民間の研究機関「中皮腫・じん肺・アスベストセンター」（東京・魚戸）は17日、「客席にも落ちていた可能性があり、危険だ」として、桑原敏武・渋谷区長あてに施設の使用中止などを文書で申し入れた。区は石綿の存在は認めているが、「現時点で危険とはいえず、7月からの全面改修で対応する」としている。

（平田篤史）

研究機関「客席に危険」



渋谷公会堂の天井裏に雪のように積もった石綿。アスベストセンター提供

施設職員には被害の可能性
石綿による病気に詳しい兵庫医大の中野孝司教授（呼吸器科）の話

アスベスト 太さが髪の毛の5千分の1ほどの天然の鉱物繊維。耐火・耐熱性にすぐれ、60年代から80年代に建物の断熱材などに広く使われた。吸い込むと、がんなどの危険性が高まる。日本では95年に2種類が使用禁止、昨年10月に原則全面禁止となった。潜伏期間は30、40年と長い。60年代に建てられたビルの修理・解体による空気中への飛散が今後増える懸念され、厚生労働省は7月、「石綿障害予防規則」を施行する。

断熱材として吹き付けてあった石綿がはがれ落ちて骨材がむき出しになっている様子や天井裏の床に石綿が積もっている様子

区「7月から改修」

同センターによると、今年に入って、天井裏の写真とともに関係者から告発があったという。写真には、天井裏の鉄骨に

断熱材として吹き付けてあった石綿がはがれ落ちて骨材がむき出しになっている様子や天井裏の床に石綿が積もっている様子

子が写っている。天井裏には、照明作業用の渡り板があるほか、天井に取り付けられたライトの周辺や壁際などに

すき間があり、客席や舞台上に石綿が落ちていた可能性があるという。

同センターの永倉冬史事務局長は「客席の脇に落ちた石綿を掃除して、ごみとして捨てた」という関係者の証言もある。子

どもも含め不特定多数の人が出入りする施設であり、緊急に対策が必要だ」と話す。

た人は健康被害の可能性

多目的ホールとしてオープンした。「8時だヨ！全員集合」や「題名の公開番組で使われたほか、音響のよさからロックからクラシック、演歌まで幅広い分野のコンサート会場として利用されている。03年度の入場者は43万5千人。昨年4月には、初来日した韓国の俳優・ユンジュンさんのファンとの集いが開かれた。

建築から40年たつて老朽化が目立ち、座席幅を広げるなど総額13億円をかけて改修することが決まっているが、6月までは、ほぼ月の半分は、コンサートや卒業・入学式などのイベントの予定が入っているという。

公共施設の石綿をめぐるのは、99年に文京区立の保育園で、改修工事の際に石綿の粉じんが飛び散った例がある。園児と父母らが区などに慰謝料を求めた訴訟を起こし、04年に区などが解決金などの名目で300万円を支払い、園児が将来、石綿が原因の病気を発症した場合、区が治療費などを負担することで和解した。

がある。重要なのは、どんな種類の石綿が、どのくらいの量、施設内に入り、空気中に浮遊しているのかを明らかにすることだ。

た。